



新データ解析ソフトVEDAの状況

本間 希樹

水沢VERA観測所

VEDAの基本的なコンセプト

- AIPSとは別に、なるべく自動化された、なるべく客観性を持つ解析ソフトを持つ
- VERAの解析をルーチン的に流し、最終的には観測者にいきなりマップと位置が渡せる状況になるのが理想

2008年の状況

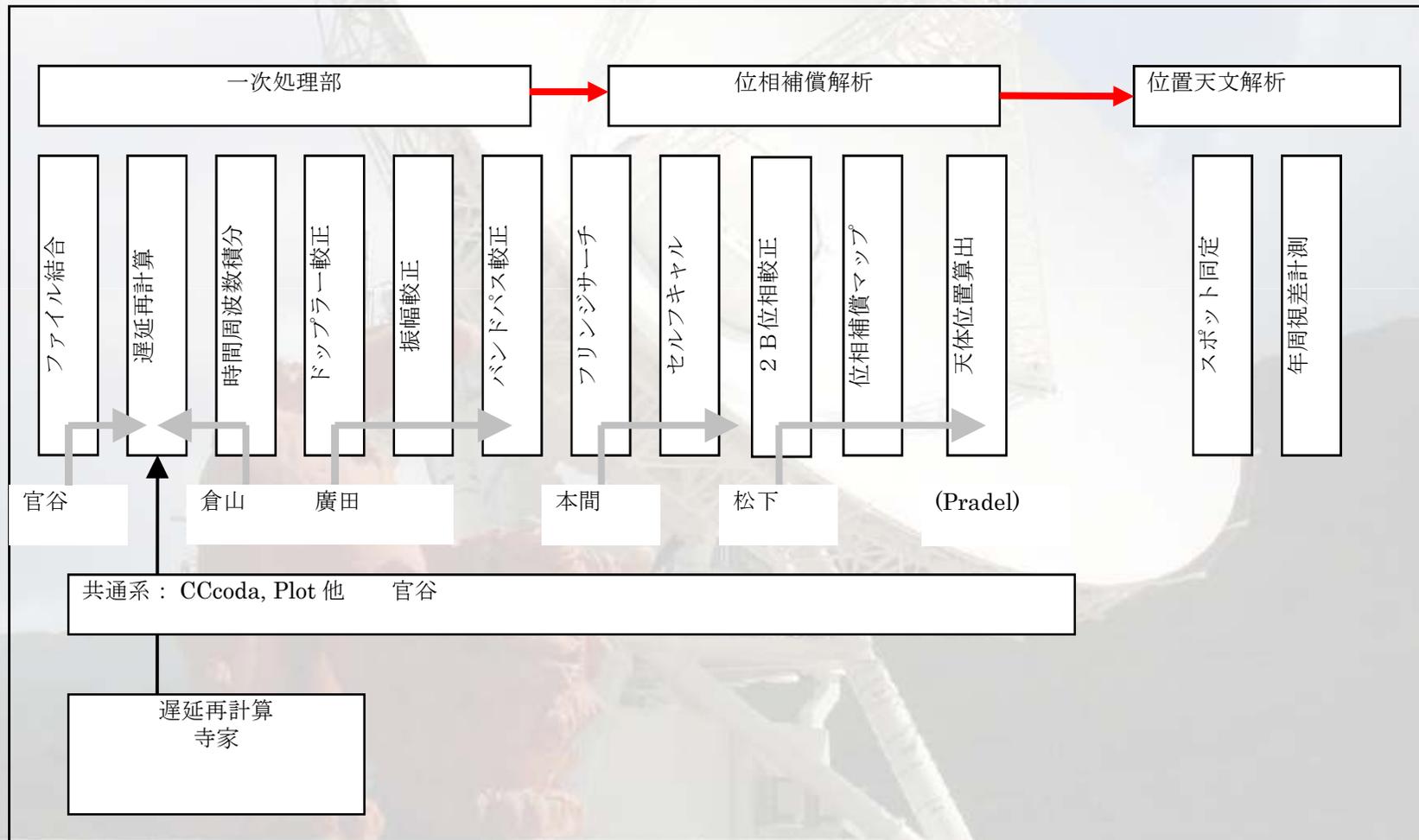
- 各エポックごとのデータ解析部が完成
8月に所内向けリリース

各種キャリブレーション
FRINGEサーチ、セルフキャル
位相補償イメージング

- メンバー異動
本間、廣田、松下(専門研究職員)
 - 倉山(2008年4月 KVNへ)
 - Pradel(2008年10月 Astronへ)

各コンポーネントの構成

全体を幾つかのコンポーネントに分割して担当



動作環境など

- 言語: C, C++, fortran
- OS : Linux (Redhat enterprise)
- Linuxコマンドラインから呼び出せる(shプログラム化容易)
- 動作計算機
解析用計算機(@三鷹)
Xenon 2.6 GHz 8 core x 6 servers,
HDD : 1.2 TB x 6
- 基本的には、三鷹以外(水沢、鹿児島など)からはvncなどでネット経由でログイン
- ただし、特殊なプログラムではないので、ローカル計算機に移植することも比較的容易(と思われる)

動作例

- Observation summary
(データの中身確認)
- Fringe search
(1ビームのフリンジ検出)
- Selfcal
(参照源のイメージング)
- Phase-referenced map
(位相補償後のイメージング、位置測定)

今後の目標

2008年度後半（開発フェーズから試験運用フェーズへ）

- いくつかのデータ解析処理試験
（バグ出し、機能試験含む）
- 精度検証（AIPSとの比較など）

2009年度

- 本格運用
プロジェクト観測の定常解析に使用
- 位置天文解析（マルチエポック解析、年周視差と固有運動フィット）部の作成

○共同利用観測についても2009年度以降、サービス解析を実施する？（リクエストがあれば）